

門司中学校 実践交流会 分散会 第3ブース

国語科 第2学年

「一字違いで大違い」

授業のねらい

・活用しない付属語が、助詞であること、四種類あること、それぞれがいろいろな語について意味を付け加えたり、語句と語句の関係を示したりする働きをもつことを確かめる。

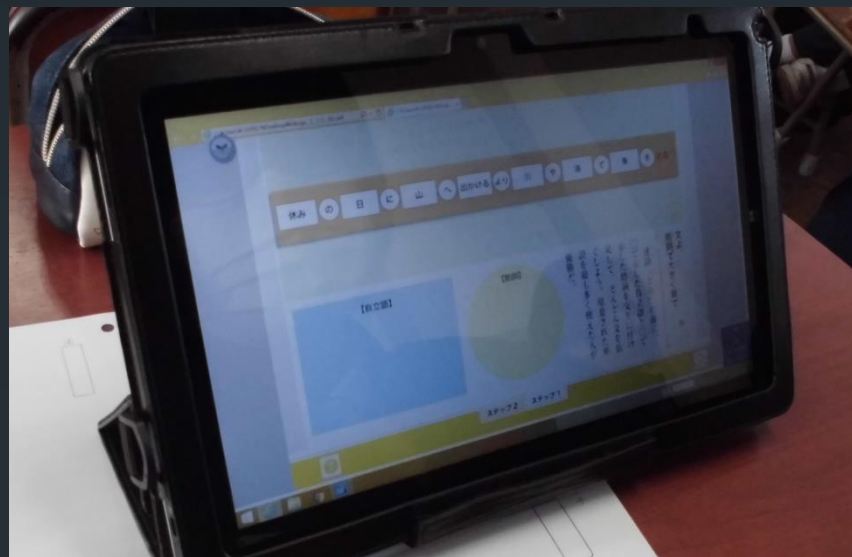
ICT機器の活用場面



東京書籍「Dマークコンテンツ」を活用

- ・語群の中にある自立語と付属語をすべて使い、短文を作る。

ICT機器の活用場面



語順を自在に組み直すことが可能なので、短文作成への抵抗感をなくすことができる。

生徒の反応

- ・タブレットを使うというだけで、文法の学習に対する嫌悪感が薄れているのが手に取るようにわかった。
- ・語群から選んだ語を指で動かして問題文の□と○に当てはめるといった活動おもしろかったようで、普段文法の授業には消極的な生徒も積極的に取り組んでいた。

成果と課題

<成果>

- ・指導する側としては、生徒が作った文を即時に画面に映し出して全体で共有できるという点でタイムロスがないこと、生徒は自分のものが映し出されるということで達成感を味わえることがタブレットを使ってよかった点だと感じる。
- ・○の語を抜いた文を見せることで、助詞がなければ日本語らしい文にならないということを視覚で捉え、語感として実感できたと思う。